

拓く 通信



風をおこそう——みんなが担い手 ～人口減少社会に、みんなで向き合いたい～

❖ 理事長メッセージ ❶ 社会福祉法人拓く 理事長 馬場 篤子

この写真は、久留米市安武町にある「JAくめ安武農産物直売所そらまめ」でのひとこまで。2017年12月より野菜等の販売や地域食堂を展開し、お昼時には高齢者や子育て中の女性、会社勤めの方、障がいのある方も来店されます。運営は安武町の有志による一般社団法人「ほんによかね会」。近所で暮らしていても働いていても互いを知らない方々が、地元の食材を使った料理に惹かれてここで出会うことに。若い母親は、「以前は近所のおばちゃんが少し怖かったけれど、話をしてみると子育てのことを教えてくれる」と嬉しそう。互いの顔と名前を覚え、ほほえましい関係が生まれています。

あなたは今、お隣さんやご近所さんと、または子育て中ならば「ママ同士」で話していますか？親の介護は専門家に任せればよい、子育ての不安は専門家に相談すればよいと考えていませんか？人口減少社会では、高齢者がぐんと増え、働き盛りの人はぐんと減り、公的サービス、専門家の支援だけに頼るという考えは通用しません。「自分は貯蓄があるので大丈夫」

と考えがちですが、人手のない中、お金だけで解決するとも思えません。また、子どもや孫の時代のことまで考えていますか？そこで、私達は「今、人口減少社会に、みんなで向き合いたい」と考え、2017年10月から今年3月まで国のモデル事業に取り組み、市民の皆さんと共に6つのプロジェクトを進めました。テーマは「専門職主体の一方支援から民間活力による支え合いの実践」。人口減少社会だからこそ、高齢者、障がい者は勿論、赤ちゃんから看取られる人まで、一人ひとりが誰かの担い手になっていると捉え直し、支え合う地域の文化を創るという、新たな風をおこしました。

2018年度も国のモデル事業を受託。多くの方々が担い手となって社会的事業に関わっていくにはどのような地域の基盤を創る必要があるのかを実践研究し、「インクルーシブなコミュニティを生み出すためのプラットフォーム創り」をテーマに、新しい地域の文化として多くの方々と共に育てあげ、ここ久留米から全国へ広げていきたいと思ひます。

❖ CONTENTS	● 特集 2017年度厚労省モデル事業にチャレンジ	● 提言 重い知的障がいがあっても、一人暮らしをしています。…… 5
	コミュニティづくりに取り組みました …… 2・3	● 2017年度事業のご報告 …… 6・7
	安武農産物直売所「そらまめ」開店中！ …… 4	● 11月4日開催！ 第17回ポレポレ祭り …… 8